

# ルールメイカー育成プロジェクト

～ルールを学び、対話的に問題解決する力を育む実証事業～

---

2020年度事業実施報告

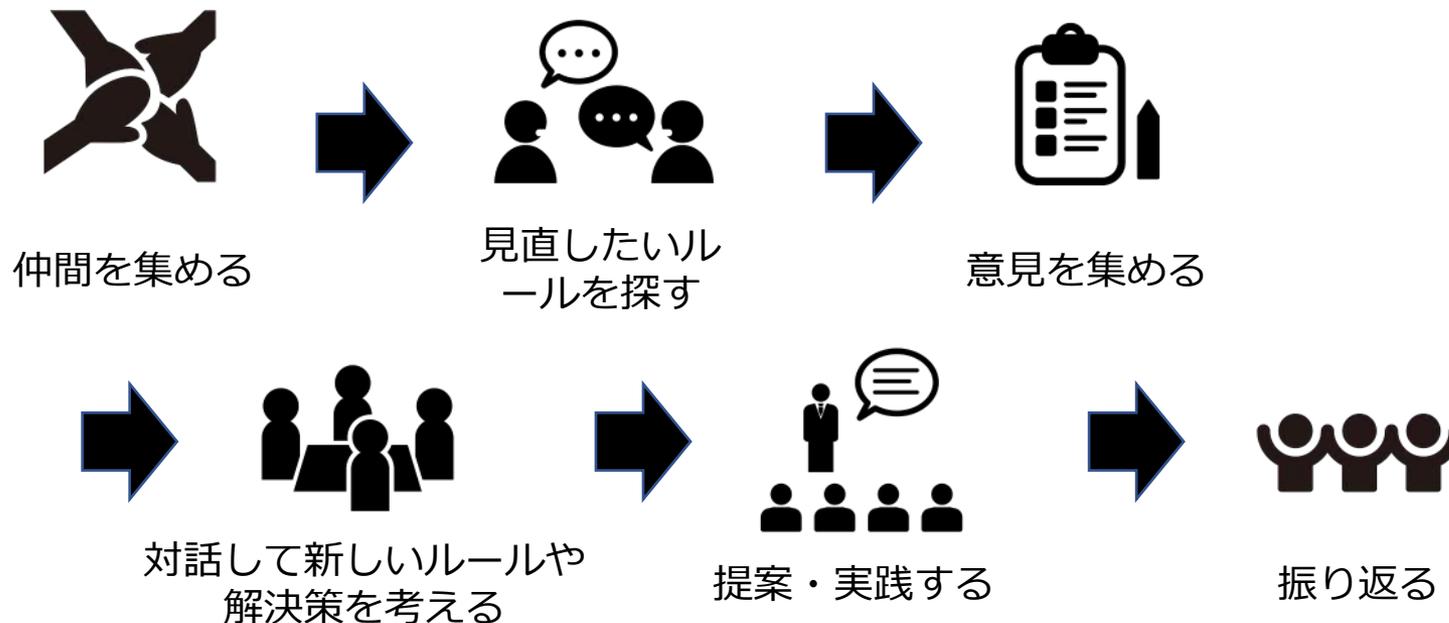
# 1. 事業概要

**KATARIBA**  
*Shape the Future*

## Vision

身の回りのルールを疑い、対話を通して納得解を見つける力を育む

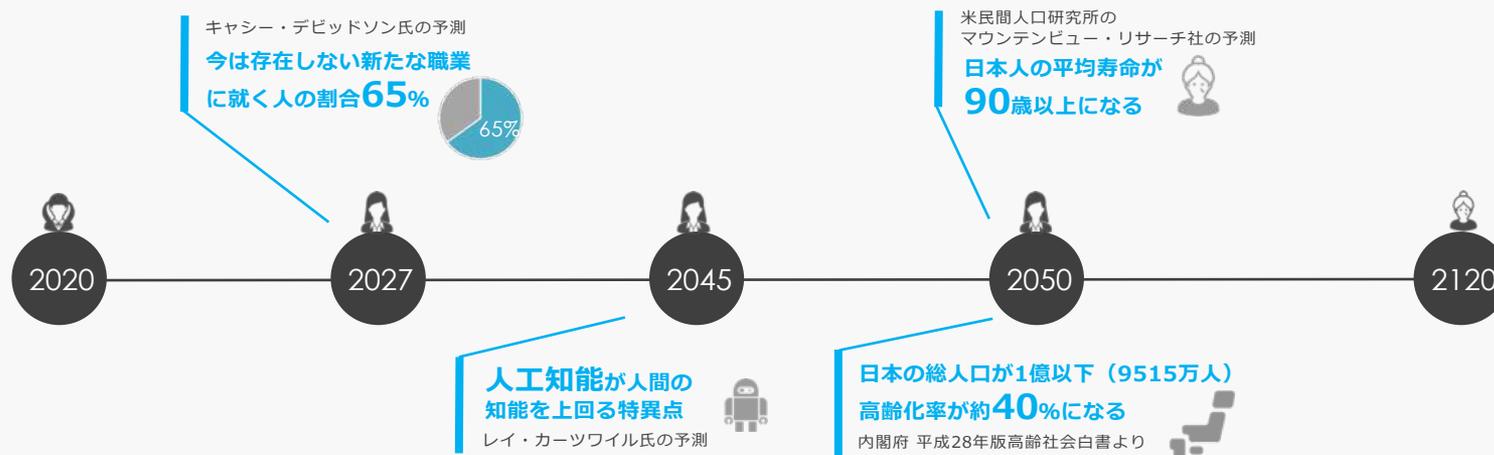
既存の校則やルールに対して生徒が主体となり、先生・保護者などの関係者との対話を重ね納得解をつくること（ルールメイキング）を通して、課題発見・合意形成・意思決定をする力（市民性“シティズンシップ”）を育くプロジェクトです。対話的・民主的な合意形成のプロセスを経て、生徒たち自身が当事者として学校・保護者・地域などと協働して校則やルールを変えていくことで、「自分たちの学校は自分たちでつくる」ことを応援します。



## 背景1 予測不能な未来を生き抜く力が全ての若者に必要

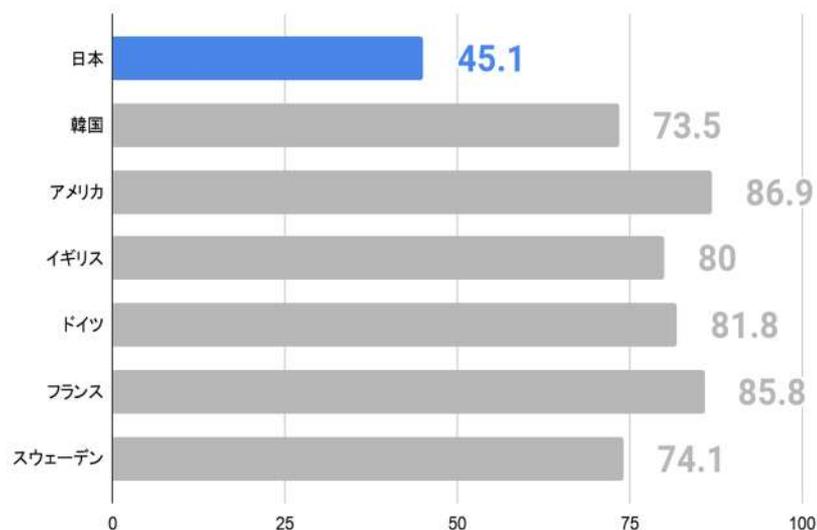
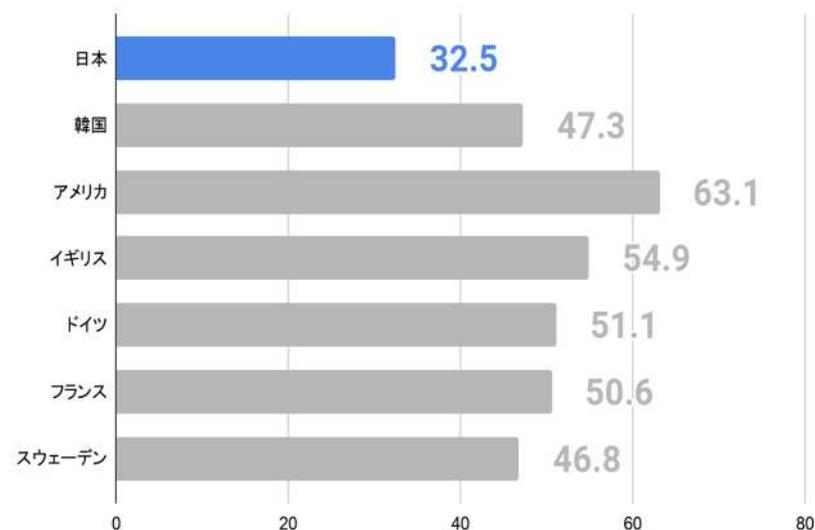
社会は複雑化し、若者を取り巻く環境はこれまでの当たり前が通用しないほど急速に変化しています。予測不能な未来を生き抜く力（課題発見力/合意形成力）が全ての若者に求められています。

## ▶ 予測不能な未来



## 背景2 ▶ 自己肯定感が低い、意欲を持ってない日本の若者

私は、自分自身に満足している

私の参加により、変えてほしい社会現象が  
少し変えられるかもしれない

出典 | 令和元年 内閣府 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査

**背景3 ▶ 学校への参画が、市民性を育む（海外での研究の蓄積）**

- ・ 「生徒会（役員）活動への参加経験」  
▶ 成人後の投票や市民参加を促す効果  
(Verba et al. 1995, Homana 2018)
- ・ 「学校の意思決定への参加の自信」  
▶ 政治参加の意欲に影響（国際比較調査）  
(Torney-Purta et al. 2001)
- ・ 「民主的な学校風土」  
▶ （学級での意見表明の奨励や  
学校の意思決定への参加など）  
「教員の公平性」  
（校則の公平性を含む）  
市民参加への意欲に影響  
(Lenzi et al. 2014)

**背景1 ▶ 予測不能な未来を生き抜く力が全ての若者に必要****背景2 ▶ しかし、自己肯定感が低く、意欲を持ってない日本の若者****背景2 ▶ 学校への参画が、市民性を育む（海外での研究の蓄積）**

中学生・高校生にとって身近な学校の校則やルールを題材に、対話的・民主的なプロセスを通して納得解をつくる力を育むとともに、学校・社会へのオーナーシップを育みます。

## モデル校



安田女子中学高等学校  
(広島県)



岩手県立大槌高等学校  
(岩手県)



新渡戸文化中学・高等学校  
(東京都)

## アドバイザー



菅野一徳氏  
熊本大学准教授



内田良氏  
名古屋大学准教授

## パートナー



古田雄一氏

大阪国際大学短期大学部准教授 ワークショップデザイナー



古瀬正也氏



山本龍太郎氏

大江橋法律事務所

## 事務局



認定NPO法人カタリバ

## 2. 事業実績

R2年1月 生徒より	R2年4月 生徒会	R2年5月 生徒総会 ①	R2年5月 第1回 校則検討委員会 ②	R2年5-6月 授業 ③	R2年6月 第2回 校則検討委員会
生徒会複数名より 教員に対し、校則 改定に向けた要望	生徒宣言策定ワー クショップの開催 (全2回)	①校則検討委員会 の設置 ②生徒宣言の採択	テーマ 「夏服に関する校 則改定について」	公共を考える授業 (政治経済) 「自由 vs 規制」 (教育課程との連携)	テーマ 「頭髪に関する校 則改定について」

### 1 生徒宣言の採択

生徒自らなりたい生徒像、ありたい学校像を設定し、校則を考える上での指針を示しました。

〈大槌高校 生徒宣言 前文〉

私たち大槌高校生徒は震災後、この大槌高校で避難所運営を始め、復興研究会という組織を立ち上げ、大槌に貢献するよう努力しました。そこでは「自分で考え、自分で判断をすること」、「主体的に活動すること」の大切さを学びました。私たちはこのような精神を引き継ぎ、学校生活に生かしていきます。

私たちがすべきことは、生徒全員でなりたい生徒像やありたい学校の姿を問い続け、より良い学校生活を送ることができる理想の状態を共有することです。その理想の下で、どのように生活を送るべきかを一人一人が考え判断する力を高めていくことが重要です。私たちが学校生活を送る上で拠って立つべき理想をここに宣言します。

### 2 校則検討委員会

校則検討委員会は、生徒と教職員がテーマとして設定した校則を題材に、あるべき校則について話し合う場です。議論を通して自分の立場だけではない様々な立場の意見に気付かされます。

(例：女子生徒の夏服のベストはなくすべきか？  
制服は本当に必要なのか？  
制服を着ることにはどんな意義があるのか？)



### 3 「公共」を考える授業

(地歴公民科教諭 菊池先生)

政治経済の授業では、「自由」と「規制」を巡る議論を取り上げ、校則の意義について考えました。

コロナ禍における移動制限は国民の自由を奪うのかなど実際の社会で起こる難問を取り上げ生徒同士での議論を行いました。



**1** R2年10月-  
ランチミーティング

中高の生徒会有志メンバーがランチに集まり、校則見直しについて議論

**2** R2年10月  
授業

中学2年生を対象に校則をテーマにした授業を実施

**3** R2年12月  
ワークショップ

有志メンバーを中心に「見直したい校則・ルールを見える化する」WSを実施

**4** R2年1月-  
校則改定提案

職員会議にて、校則改定案を提案

**1** ランチミーティング

中学・高校の生徒会有志メンバーがランチ（お昼休憩）に集まり、生徒会のあり方や校則・ルールの見直しについて議論を進めました。事務局からは、大槌高等学校や安田女子中学高等学校でのルールメイキングの取り組み（プロセス）について、生徒や教職員に共有しました。事例から「自分たちはどう進めるか？」を考える機会になりました。


**2** 「校則」を考える授業

中学2生の授業時間を使い、「校則」をテーマに授業を実施しました。下記の4つの問いについて調べ、対話をしました。

- 校則ってなんのためにあるのだろう？
- 全国にはどんな校則があるのだろう？
- 「その校則、学校に関わる全ての人が説明できますか？」（という高校生が書いた記事）を読んで考えたこと。
- どんな校則を作っていきたいですか？


**3** 見直したいルールに見える化ワークショップ

見直したい・つくりたいルールを「見える化」する校内ワークショップを実施しました。校則・ルールについて考えたい有志の生徒が集まり、現在の校則・ルールを読み直しながら、見直したい・つくりたいルールについて、対話しました。


**4** 校則改定案の提案

生徒会有志メンバーが作成した校則改定案を職員会議にてプレゼンしました。防寒着の自由化が実現しました。

R2年2月 高校生徒会 ルールメイキング キャンペーン準備	R2年5月 高校生徒会 ルールメイキング キャンペーン実施	R2年6月 ルールメイキング チャレンジ宣言	R2年7-9月 見直したい 校則・ルール決定	R2年10-11月 新校則・ルール案 作成と提案	R2年12月- 学校との対話 最終決定
校則・ルールを見 直す動きが始まる 機運づくり コロナでストップ	アンケート企画と 新入生歓迎企画を 生徒主導で実施	生徒総会にて、 キャンペーン企 画報告とともに 宣言	20名の生徒が活動 対話と調査を重ね 3つの校則に絞る	弁護士からのアドバ イスも得ながら 新ルール案を提案	新年度から新ルー ル適用に向けて最 終調整、準備

## 1 ルールメイキングキャンペーン

生徒会や先生へのヒアリングを通して、関心の高い一部の生徒や先生だけでなく、みんなが関われる活動にしたいという思いが多く聞かれました。この思いを大切にするために校則を見直す取り組みが始まったことを広く伝え、これから皆で一緒に考えていけるような助走となる企画を実施する「キャンペーン」を行いました。



アンケート企画・・・479件の回答  
新入生歓迎企画・・・のべ237名の新入生が参加

全教員対象  
ワークショップ

校則への違和感や、一方で大切にしたい伝統や校則も明らかになりました。

## 2 見直したい校則・ルールの決定

有志メンバー約20名でルールメイキングプロジェクトチームを結成し、放課後の活動を開始しました。プロジェクトメンバーで見直したい校則を9個に絞り、全校アンケートで他生徒の見直したい度を調査しました。アンケート結果をもとに議論し、今年度扱う3つの校則を決定しました。

- 1\_情報端末機器の持ち込み
- 2\_放課後の立ち寄り
- 3\_保護者同伴でないと出入りできない場所



## 3 新ルール案の策定・提案

新ルール案を策定するために、3つのプロジェクトチームを作り、調査を実施しました。

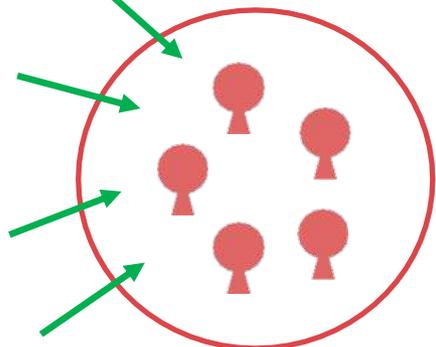
- 1\_生徒へ アンケート・校内掲示板アンケート
- 2\_先生へ 生活指導の先生などへのヒアリング
- 3\_保護者へ アンケート
- 4\_そのほか 事例調査や県警へのヒアリング

調査を通して見えた様々なステークホルダーの声を踏まえて、新ルール案の具体的な文言を作成しました。弁護士からのフィードバックを反映し、校長、副校長、高校教頭、中学教頭、生徒支援主任、生徒指導主任へ提案しました。

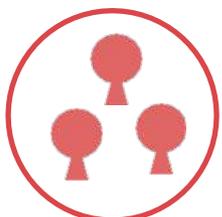
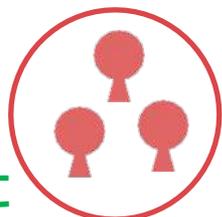


6月

ルールメイキング  
プロジェクトチーム



3つの  
チームに  
別れて活動



7月~9月

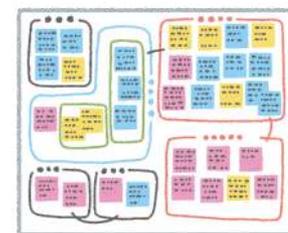
1 今あるルール  
をしてみる



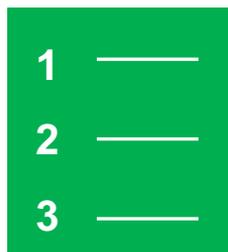
2 見直したい  
つくりたい  
ルールを個人  
で考える



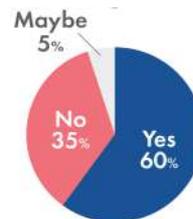
3 グループで  
分類・整理して  
可視化する



6 アンケートを  
基に3つに絞る

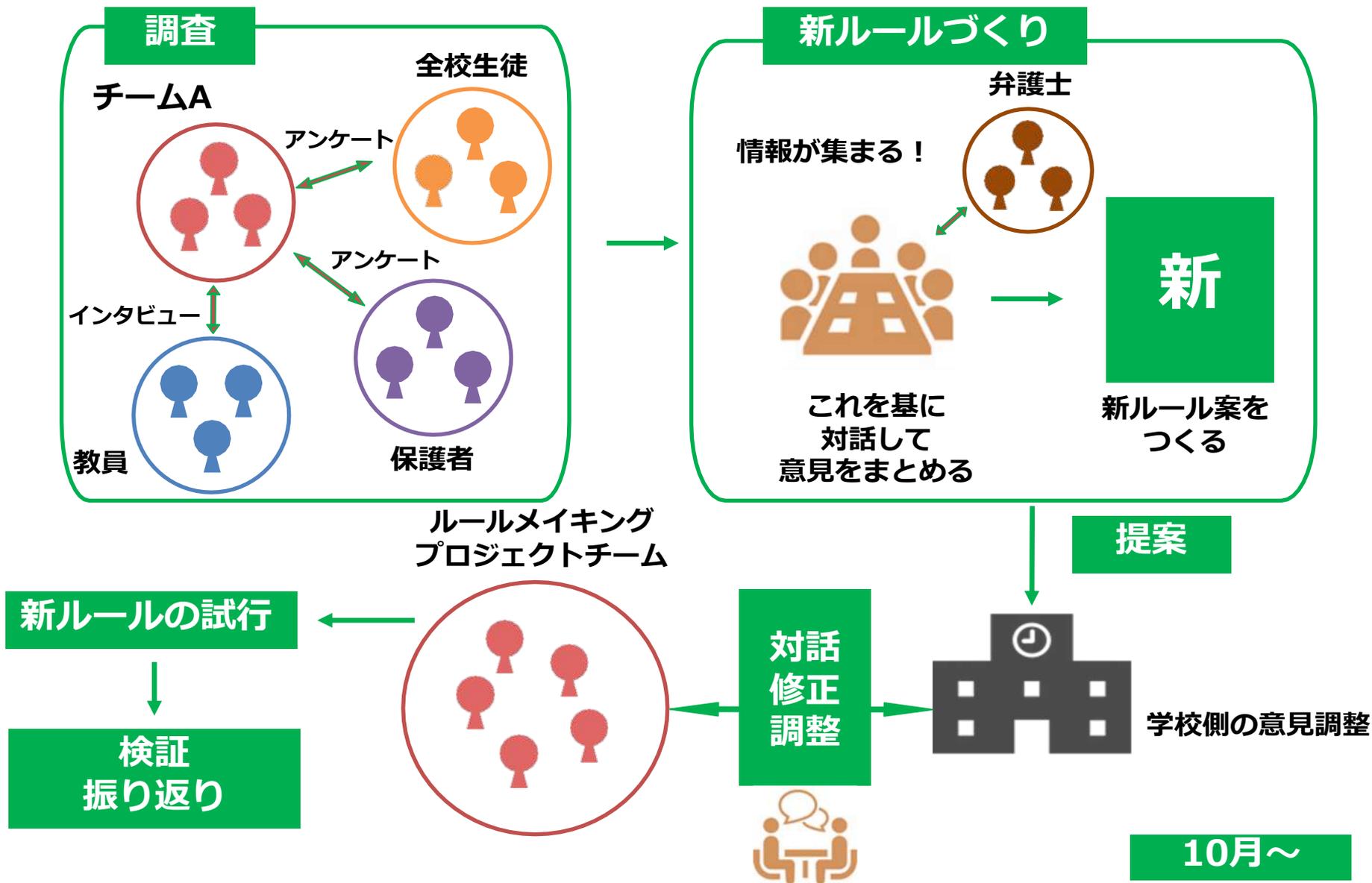


5 全校生徒に  
見直したい  
度合いを調査



4 見直したい  
ルールを  
10個に絞る





## Step0

学校全体で校則・ルールの見直しに取り組む土壌をつくる

## 0-1. 高校生生徒会によるルールメイキングキャンペーン（4月～）

前年度から、ルールメイキングの機運を高めるためのキャンペーンを検討・企画していましたが、新型コロナウイルスによる休校によりストップしました。新年度になり、高校生生徒会とオンラインでつなぎながら、オンラインでできるキャンペーンの企画を検討しました。その結果「アンケート企画」「新入生歓迎企画」の2つの企画が生まれました。



## Step0

学校全体で校則・ルールの見直しに取り組む土壌をつくる

## 0-2. 高校生徒会によるルールメイキングキャンペーン「新入生歓迎企画」

学校に馴染む機会にしてもらうと同時に、学校の校則・ルールについての紹介を高校生徒会から新入生（中1・高1）に対して行いました。延べ237名の新入生が参加しました（全4回実施）。「他のクラスの人と交流できてよかったです！」「とても緊張したけど、生徒会先輩がとても楽しく進行してくださったので、いい時間だったし、校則について、よくわかりました。」などの声がありました。



## Step0

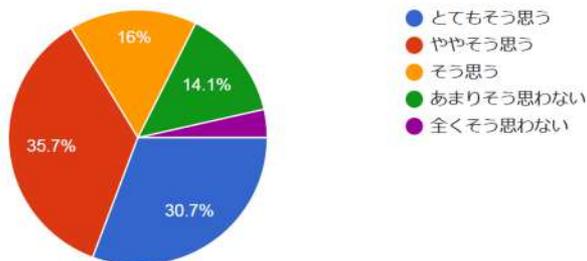
学校全体で校則・ルールの見直しに取り組む土壌をつくる

## 0-3. 高校生徒会によるルールメイキングキャンペーン「アンケート企画」

中学2・3年生、高校2・3年生を対象に、校則・ルールについての意識調査をオンラインで実施しました。校則を改善したいという割合は80%超えました。自由記述では、その具体的意見が出るとともに、現在の校則を残したいという意見も一定数ありました。

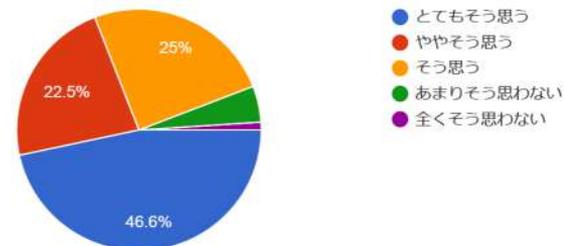
校則の中で改善したい、変えたい部分がありますか？

476 件の回答



校則を改善し、より過ごしやすい学校生活を自分たちの力で作りたと思いますか？

476 件の回答



## Step0

学校全体で校則・ルールの見直しに取り組む土壌をつくる

## 0-4. ルールメイキングチャレンジ宣言（6月）

校則・ルールを見直す取り組み「ルールメイキングプロジェクト」がスタートすることを、校長先生・高校生徒会メンバーによって「ルールメイキングチャレンジ宣言」とともに全校生徒に対して発信しました。また、有志のプロジェクトメンバー募集も始めました。



この4月からは中学生と高校生が同じ校舎で学ぶようになりました。新たなルールも必要になるでしょうし、これまでのルールを見直す必要もあるかもしれません。それは皆さん自身にとって大切なことであり、だからこそ皆さん自身にも校則やルールについて考えてほしい、そう考えました。

そこでこれから1年間、校則やルールについて、皆で話し合う『ルール・メイキング』という取り組みを始めます。「皆が幸せになるルールを作る」という目標のもと、新たなルール作りにチャレンジします。

（ルールメイキングチャレンジ宣言一部抜粋）

## Step1

## ルールの基本認識を形成する

## 1-1. プロジェクトミーティング（6月～）

有志による中高合同のプロジェクトチームが発足しました。生徒会と連携しながら水曜日の放課後に集まり活動しました。キックオフでは、「プロジェクト参加動機」と「プロジェクトを進める上で大切にしたいこと」という思いを共有し合い、基本認識を揃える、チームビルディングを行いました。

**生徒A**：「学校の校則・ルールは、厳しさでもあり、安田らしさでもあると感じています。みんなで変えていくことが“新たな安田らしさ”になるのかなと思います、“新しく変わる安田”に関わることが誇らしいと思っています。プロジェクトチームに入っていない生徒が、“気づいたら決まっていた”という状態は作らないようにしたいです。自分たちが参加しながら学校が変わっていくことを共有しながら進めていきたいです」

**生徒B**：「小さい頃から委員長などをやってきました。安田に入っても『なんでこれは変えられないの？』とみんなから質問された時に“決まりだから”という返しが自分自身多く、その返事は自分にとってイヤなことだと感じていました。プロジェクトで取り組みをはじめて、人生の中で一番“成長”を感じています」

## Step1

## ルールの基本認識を形成する

### 1-1. 高校視聴覚委員会による新聞の発行（6月～）

ルールメイキングプロジェクトのプロセスが見えている状態にするために、新聞発行をこないました。高校視聴覚委員会が毎回のプロジェクトミーティングを取材して、作成しました。新聞は各クラスに掲示されています。



## Step2

## 検討すべきルールを見つける

## 2-1. 見直したい校則・ルールを見える化するワークショップ（7月29日）

ルールメイキングキャンペーンで実施したアンケート結果と、プロジェクトメンバーひとりひとりの思いをもとに「見直したい校則・ルールを見える化する」ワークショップを外部パートナーと実施しました。またワークショップの事前準備として、アンケート分析を、パートナー研究者のレクチャーを受け行いました。



## Step3

## 見直したいルールを決める

## 3-1. 全校アンケートの実施

「見直したい校則・ルールの見える化」ワークショップで可視化した校則・ルールについて、さらに「重要度」「実現度」を軸に対話を重ねて、9つのルールに絞りました。それらについてGoggleフォームとマークシートを作成して、全校生徒にアンケートを実施しました。

**実施日：2020年9月17日～19日**  
**回答数：828/1283件（回答率64.5%）**

ルールメイキングアンケート用紙

ルールメイキングプロジェクトメンバーです。いつも活動にご協力くださりありがとうございます。今回、ルールメイキングの基盤となる「皆さんの思い」を聞くために、アンケートを実施することにしました。アンケート結果をここのからのルールメイキングに役立てていきます。

締め切りは、9月19日（土）までとなっています。皆さんの回答をお待ちしています。

学年をマークしてください ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

■以下のルール、校則についてどのように思われますか。当てはまる番号にマークしてください。  
 （すべての質問に回答をお願いします）  
 ① 見直したい ② 見直したいと思わない ③ どちらでもない（興味が無い・支障がない）

髪型、髪留めについて	① ② ③
小型扇風機について	① ② ③
情報端末機器の持ち込みについて	① ② ③
学校指定のかばんについて	① ② ③
学校指定のマフラーについて	① ② ③
サマーカーディガンについて	① ② ③
自習室の利用について（場所、方途など）	① ② ③
放課後の立ち寄りについて	① ② ③
保護者同伴でないと許可されていない場所への出入りについて	① ② ③

■当てはまる番号にマークをお願いします。  
 ① はい ② いいえ

学校の自習室を専断から利用していますか。	① ②
自身の情報端末機器を所持していますか。	① ②

アンケートは以上です。ありがとうございました。

	①見直したい	②見直したくない	③どちらでもない
髪型、髪留めについて	566	104	158
小型扇風機について	605	68	155
情報端末機器の持ち込みについて	678	66	83
学校指定のかばんについて	517	172	139
学校指定のマフラーについて	513	147	168
サマーカーディガンについて	317	195	316
自習室の利用について	284	229	315
放課後の立ち寄りについて	650	90	88
保護者同伴でないと許可されていない場所への出入りについて	600	114	114

## Step3

## 見直したいルールを決める

## 3-2. 見直す校則・ルールを決めるワークショップ（9月24日）

全校アンケート分析結果を読み解き、「見直したい（見直すべき）校則・ルールの上位3つ」を個人で決め、チーム対話、全体対話を行いました。その結果下記の3つを今年度見直す校則・ルールに決めました。また3つの検討チームを作りました。

- ・ 情報端末機器の持ち込み
- ・ 保護者同伴でないと出入りできない場所
- ・ 放課後の立ち寄り



## Step4

## 調査計画を立てる

## 4-1. 調査計画を立てる&amp;新ルール案を作ってみるワークショップ（10月16日）

プロジェクトミーティングでチームごとに立てたこれからの調査計画について検討するとともに、新ルール案を作ってみました。これらについて、弁護士を中心に外部パートナーからフィードバックをもらいました。改定案を作ってみることで、不足している視点や情報がわかり、調査計画もブラッシュアップされました。



## Step5

## 調査を実施する

## 5-1. インタビュー調査

検討する3つの校則・ルールについて、校長先生や生活指導の先生を中心にインタビューを実施しました。校則の出来た背景や校則に込められた思い、先生個人として校則・ルールに対してどのような思いを思っているのかをヒアリングしました。また広島県警へのインタビューも行い、生徒に及ぶ危険性についてヒアリングを実施しました。

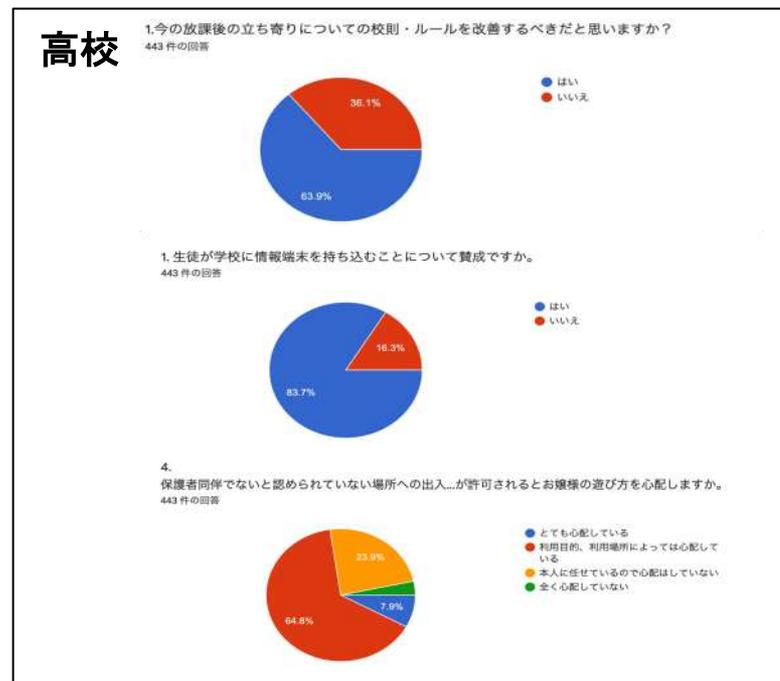
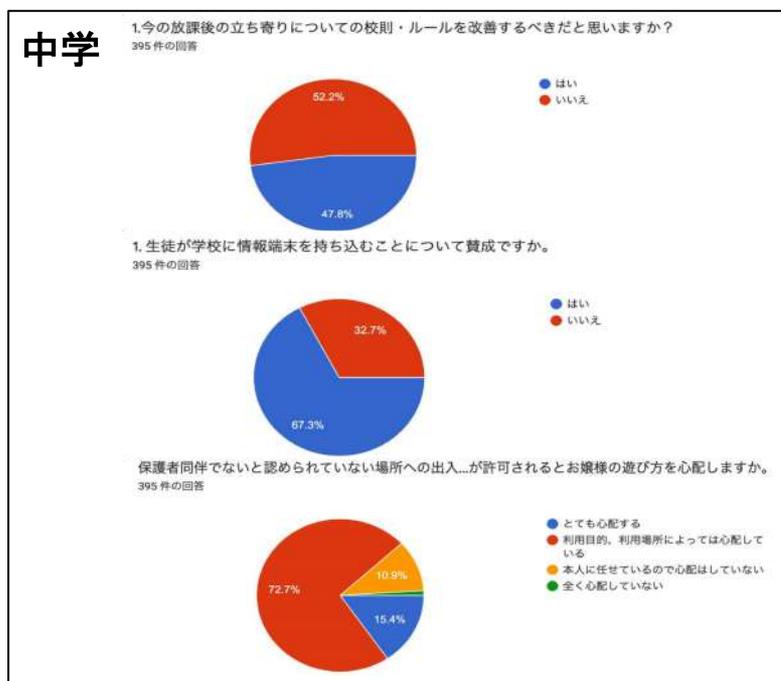


## Step5

## 調査を実施する

## 5-2. 全校/保護者アンケート調査（11月）

全校アンケートと保護者アンケートを実施しました。全校アンケートについては、Googleフォームに加えて、校内掲示板を活用したアンケート調査も実施しました。保護者アンケートについては、中学生保護者と高校生保護者に分けて全保護者に依頼しました。その結果、829/1283件（回答率64.6%）の回答が集まりました。



## Step6

## 新ルールを考え、対話する

## 6-1. 新ルール案づくり・弁護士とのオンラインミーティング（11月23日）

インタビュー・アンケート調査の結果を整理して、新ルール案づくりに取り組みました。弁護士などの外部パートナーとオンラインでつなぎ、新ルール案へのフィードバックをもらいました。



## Step7

## 新ルールを提案する

## 7-1. 新ルールの提案（11月25日）

「情報端末機器の持ち込みについて」「保護者同伴でないと出入りできない場所について」「放課後の立ち寄りについて」新ルール案を提案するプレゼンテーションを実施しました。

出席者：校長、副校長、高校教頭、中学教頭、生徒支援主任、生徒指導主任

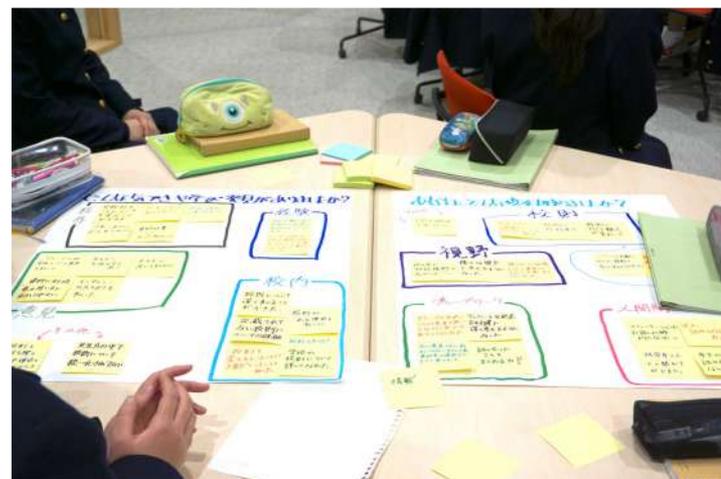


## Step7

## 新ルールを提案する

## 7-2. 中間振り返りワークショップ（12月11日）・学校内調整

中間振り返りワークショップを実施しました。6月からの校則・ルールの見直す活動の中で①どんな気づきや学び、発見があったのか②自分にどんな変化があったのか、について対話しました。「やろうと思えば“校則”を変えるという大きなこともすることができるとわかった」「自分の意見だけが全てじゃないと他人の意見を気にするようになった」などの声がありました。また教職員側では、提案された新ルール案について、学校内での協議や教員間の対話が進められました。



## Step7

## 新ルールを提案する

## 7-3. プロジェクトメンバーと教職の対話

学校内での協議や教員間の対話をもとに、現校則に照らし合わせた修正案を作成しました。この修正案についてルールメイキングプロジェクトメンバーと教員での対話の場を持ちました。修正案について意見交換をし、特に情報機器端末の管理方法について検討を重ねました。



## 1-1. モデル校オンライン交流会（2月17日）

岩手県立大槌高校と安田女子中学高等学校をオンラインでつなぎ、生徒同士の交流会を実施しました。各学校での取り組みを紹介し合うとともに、取り組みについて意見交換を行い、生徒同士が学び合う機会となりました。



## 1-2. ルールメイキングシンポジウム2021（2月23日）

ルールメイキングの価値と可能性について考えるオンラインシンポジウムを開催し約400名が参加しました。

〈登壇者〉

安田女子中学高等学校 生徒代表・教員

岩手県立大槌高等学校 生徒代表・教員

苫野一徳氏（熊本大学大学院教育学研究科・教育学部准教授）

内田良氏（名古屋大学大学院教育発達科学研究科・教育学部准教授）

浅野大介氏（経済産業省サービス政策課長・教育産業室長）

〈ファシリテーター〉

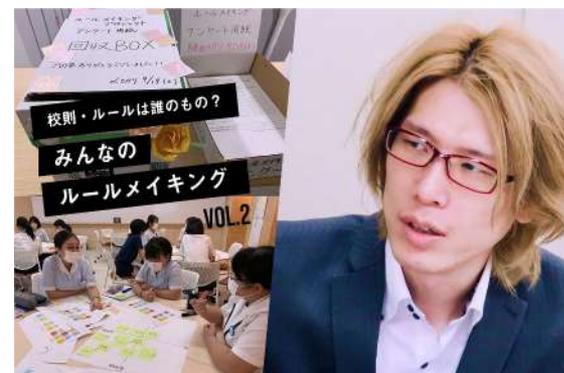
今村久美（認定特定非営利活動法人カタリバ代表理事）



### 1-3. ウェブメディアでの情報発信



「校則・ルールは誰のもの？」  
 みんなのルールメイキング活動レポートvol.1  
 2020年8月27日掲載（KATARIBAマガジン）



教育社会学者・内田良さんに聞く「校則・ルールは誰のもの？」  
 みんなのルールメイキング活動レポートvol.2  
 2020年10月29日掲載（KATARIBAマガジン）



「生徒と校則をつくる“ルールメイキング”、  
 やってみてどうだった？」先生たちに聞きました  
 ～みんなのルールメイキング活動レポートvol.3～  
 2021年2月18日掲載（KATARIBAマガジン）



「校則は時代にあわせて変えたっていい」  
 伝統女子校の生徒と先生が1年間話し合い  
 2021年2月19日掲載（Yahoo!ニュース個人コーナー）

### 3. 本事業で得られた成果

## 1-1. 安田女子中学高等学校の事例から見た生徒の変化や課題（途中経過） 大阪国際大学短期大学部准教授 古田雄一氏監修

2020年12月11日、安田女子中学高等学校ではプロジェクトメンバーと中間振り返りワークショップを実施しました。ルールメイキングの活動を通して「①どんな気づきや学びや発見がありましたか？②あなたにどんな変化がありましたか？」の2点を軸に振り返りました。また複数の生徒・教職員へのインタビューも実施し、ルールメイキングの活動を通じた生徒の変化や課題について、以下のポイントが見えてきました。



### 【変化1】 生徒の自信の芽生えや意見を伝える力の向上

ルールメイキングプロジェクトの活動を重ねる中で、生徒たちには、自分の意見を他の生徒や様々な人に伝える力や自信がみられるようになった。

### 【変化2】 多様な意見の認識や、対話的・民主的なプロセスの重要性の理解

生徒たちから多く聞かれたのが、多様な意見に触れることでの視野の広がりである。教職員や保護者、外部の人など様々な人の声を聴きながら活動を進めたことの意義といえよう。

### 【変化3】 大人や学校との信頼関係の醸成

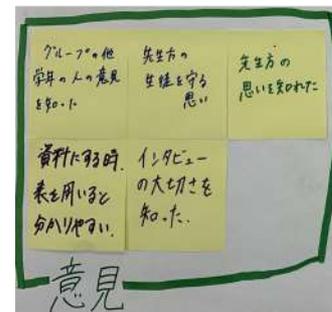
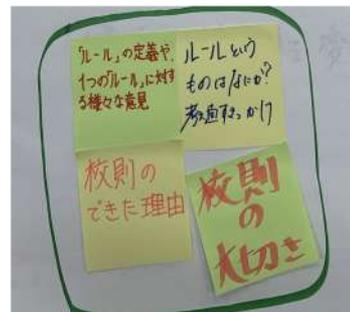
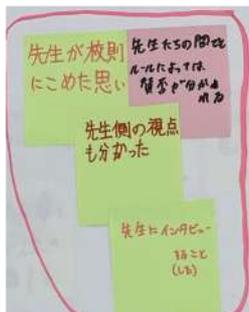
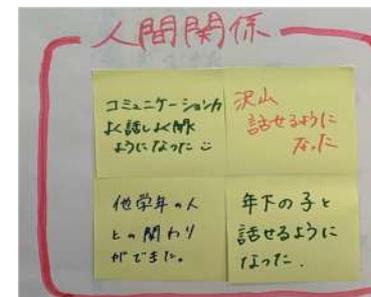
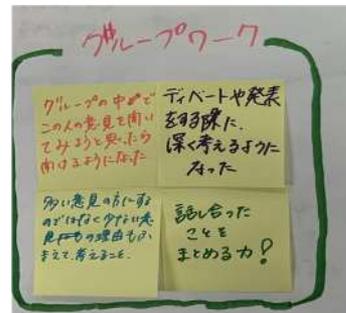
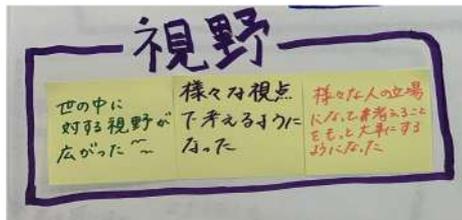
ルールメイキングプロジェクトの活動は、教員の生徒理解の深化に加え、生徒の側にとっても校則の背景にある教員側の考えや大人の意見の理解にもつながり、相互の信頼関係に寄与した。

## 【課題1】大人の意見への同調や自己規制が促される可能性

生徒だけでなく、教職員や多様な関係者の声を集めることは大切な学びとなった一方で、時間が限られていたこともあり、生徒が大人の意見に押されてしまった可能性も考えられる。大人の意見も、必ずしも鵜呑みにせず、検討を重ねるようなサポートが課題として見出された。

## 【課題2】全校生徒との丁寧な対話の必要性

全校生徒との意見交流については、掲示板や新聞部の発信など生徒たちも工夫を重ねてきたが、コロナ禍の制約もあり、それでも十分にできなかった面も考えられる。ルールが変わることに慎重な立場の生徒も含め、丁寧な対話を重ねる進め方について、引き続き検討が必要である。



▲振り返りワークショップ  
での生徒の付箋の抜粋

## 1-2. 安田馨さん 安田女子中学高等学校 校長補佐

今回、本プロジェクトを通して生徒たちの伴走を行ってきたが、生徒たちは大きな成長を遂げたと感じている。一言でいえば、1年前には想像していない生徒の姿があった。特に積極性に関わる部分での変化は顕著である。本プロジェクトでは中学1年生から高校2年生までの5学年が一緒に行うという学年横断型の取り組みであるが、中学生と高校生が混じりながら、KJ法やグループワークを行った。自らの意見を発信するという積極性だけでなく、中学生が意見を出しやすい雰囲気をつくるなど聞き手としての成長も見られた。当初は教員側で話し合いをリードする場面もあったが、中盤からは生徒それぞれが行動的になり、むしろ教員側で状況の把握が追いつかなくなるほどであった。また当事者意識についても著しい変化を感じている。当初は自分たちの希望的な観点から校則を語っていた彼女たちが、いつしか教員の立場ではどう受け止めるか、保護者はどういう心配をするかなど、それぞれの立場に対して考えを巡らせ、その最適解を探すようになっていった。より良い学校を作るという当事者性をもって取り組む姿は頼もしいものであった。

学校側の観点から振り返ると、前向きな姿勢で校則の見直しを行えたことは大きな成果と言える。最初に「皆が幸せになるルールを作る」という設定を行ったことで、視点のバランスが取れたこと、外部の専門家が入ることで必要に応じてアドバイスをしてもらったことも大きい。本プロジェクトのスタート時期に教員全員でのワークショップを行い、それぞれの教員の校則に対する考え方を共有し、これまで必要であったルールであっても時代によって変化させて良いのではないかとという観点での話し合いが持てたことでスムーズにプロジェクトを進めることができたのではないかと考えている。

一方で課題もいくつか見えてきている。生徒たちは授業やクラブ活動で一日の大半を使うため、ルールメイキングの活動をする時間の確保には常に苦労が伴った。また伴走する側の教職員も相応の準備や生徒のフォローが必要であり、一定の負荷がかかることは否めない。加えてプロジェクトに携わっていない生徒や教員との情報共有についても様々な工夫を凝らしたが、十分とはいえない部分があった。保護者を含めると数千人の合意形成を行うものであり、その点は単年度で完成するものではなく、創意工夫をしながら複数年度で徐々に改善していく必要があると考えている。今後、生徒たちとも課題を振り返りながら、より良いルールメイキングの形を模索していきたい。

## 1-2. ルールメイキングプログラム例（事例校 安田女子中学高等学校）

導入	メンバー募集/ チームビルディング	<p>▼プロジェクトを中心になって進めるメンバーを募集する。 *生徒会役員が担う形もあれば、有志のメンバーのチーム（ルールメイキング委員会）を結成して行う方法もある。</p> <p>▼メンバーの自己紹介を行う。</p> <p>▼メンバー一人ひとりが安心して意見を発することができるような関係づくりのワークやグラウンドルール作りを行う。</p>
	Step 1 ルールについて基本認識を形成する	<p>▼ルールとは何か、ルールを見直すうえで意識すべきことは何か、基本認識をメンバー内で共有する。</p> <p>例 ワークショップ、弁護士や専門家による講義など</p> <p>▼扱う「校則」や「ルール」の範囲について認識を合わせる。</p> <p>*まずどのような校則やルールがあるのか調べることから活動を始めても良い。調べた成果を掲示等で学校全体に共有できると、その後の活動にも役立つ。</p>
	Step 2 検討すべきルールを見つける	<p>▼校則や学校のルールの中で、検討すべきものの候補を集める。</p> <p>*メンバーだけでなく幅広い生徒の声を拾い上げる。</p> <p>例 メンバーによる周囲の生徒へのヒアリング、掲示や意見箱、授業やHRでの募集、SNS等</p> <p>*教員の意見も聞いてみる、教員からも検討してみたい候補となるルールを提示するといった過程を経て良い。</p>
ルールの選定  *既に対象となるルールが決まっている場合は Step 4以降へ	Step 3 見直したいルールを決める	<p>▼Step 2で挙がったものの中から、見直したいルールを選ぶ。メンバーが中心となり、下記留意点も踏まえつつ決定する。</p> <p>*選定の基準やポイントを（Step 1で学んだこととも関連付けながら）一定程度提示すると良い。</p> <p>例 重要性、緊急性、実現可能性、生徒/教員の支持</p> <p>*生徒の投票（HR等で全員参加、一定期間中に任意参加など）を行い、結果を参考情報の一つとして活用するなど、他の生徒も選定プロセスに関与できることが望ましい。</p> <p>*生徒だけで決めず、教員と話し合いの場を設ける。</p> <p>*選定方法自体も、メンバーと相談しながら決めても良い。</p> <p>▼選定結果について教職員や学校全体に発表する。</p>
	Step 4 調査計画を立てる	<p>▼選定したルールについて何をどのように調べるか話し合う。</p> <p>*当該ルールに関してどのようなことを調べたいか考える。</p> <p>例 ルールへの支持度/賛否、その理由、考えうる改善策（「靴下の色は何なら良いか」「アルバイトはいつ認めてほしいか」など、具体的なことを尋ねても良い。）</p> <p>*自分たちなりの変えたいイメージや仮説を立ててみて、それについて意見や観点を集めても良い。</p> <p>*当該ルールに関係する人を整理し、調査対象を考える。</p> <p>例 生徒、教員、保護者、近隣の地域住民、卒業生</p> <p>*調査方法を、長所・短所も踏まえながら考える。</p> <p>例 アンケート、インタビュー、意見箱、学校通信</p>
	Step 5 調査を実施する	<p>▼Step 4の調査計画に基づいて、調査を実施する。</p> <p>*クラスメイトや部活動の仲間、授業等で協力を求め、学校の幅広い生徒が調査に参加できるようにしても良い。</p> <p>▼調査した結果を整理し、分析する。</p>

解決策の立案	Step 6 解決策（新ルール）を考え、対話する	<p>▼Step 5の調査結果も踏まえ、解決策や新ルールを考える。</p> <p>*場合によっては、ルールを変えるのではなく、現行ルールの中でできる解決策を考えても良い。（ルールを変えることは、数ある解決手段の一つに過ぎないため）</p> <p>*他校の事例を調べたり、他校の生徒と意見交換したりすることも、選択肢や視野を広げる上で効果的である。</p> <p>*弁護士など専門家のアドバイスを求めるのも良い。</p> <p>▼解決策/新ルールの方向性を考える過程で、必要に応じて生徒や教員、学校関係者と意見交換の機会を設ける。</p>
	解決策の提案と実践	<p>Step 7 解決策（新ルール）を提案する</p> <p>Step 8 新ルールを適用する（または試行する）</p> <p>▼解決策や新ルールを管理職や教職員に提案し、意見交換を行う。</p> <p>▼提案を踏まえ、校内での検討や調整を行う。</p> <p>▼全校生徒に新ルールについて周知する。</p> <p>▼実際に新ルールを適用する。</p> <p>*初めから新しいルールに全面的に変えるのではなく、一度期間限定で試験的に適用してみて、検証する方法もある。</p>
振り返り	Step 9 振り返りや見直しを行う	<p>▼新ルールや解決策の結果を評価する。</p> <p>例 メンバーの話し合い、インタビュー、アンケート</p> <p>▼必要に応じて、今後の検討事項や課題について話し合う。</p> <p>▼活動の振り返りを行い、メンバー自身の学びを内省する。</p> <p>*一連の活動のまとめとなるような成果物を作ることも、活動の振り返りの効果的な方法である。</p> <p>*活動成果を他校と合同で発表しあう場を設けても良い。</p>

### 全体を通して大切にしたい問い

- 様々な立場の意見を聴いているか？
- 同じ立場の中でも多様な意見があることを踏まえているか？
- 学校全体に活動のプロセスが見える化・共有されているか？
- 一部の人のみで進めず、様々な人がプロセスに参加できるようになっているか？
- 意見を表明しにくい/参加しにくい立場のことも十分に考えられているか？
- 大人の考えの一方的な押し付けや誘導になっていないか？
- 生徒の一方的な主張に終始していないか？

## 4. まとめ・今後に向けた示唆

## 1) 学校に合わせたカスタマイズ

- 学校によって状況が異なるため、基本プログラムの確立とともにそれぞれの学校状況に合わせたカスタマイズが必要です。

## 2) 外部人材は学校への新しい風となります

- 学校の先生にはない専門性が入ることで、プログラムが有機的に機能しました。
- 外部人材はこれまでの学校風土に縛られず、学校内に新たな対話的風土や対話的関係性を生み出すことができました。
- 外部人材と生徒との出会いは、視野を広げる刺激となりました。



ルールメイキングが日本中の学校で行われている未来にむけて、次年度は以下のポイントを軸に実証事業を行います。

## 1) プログラムパターン及び実施サポートの開発

(校則を見直す生徒側のプロセスに加えて、教職員側のプロセス検証)

- どのようなプログラムパターンや研修、ツール、継続サポートが必要なのか
- 教職員側は、校内調整プロセスや授業との紐付けなどを重点に検証

## 2) 外部人材の役割

- 担う役割、立ち位置、関わり方（生徒、先生、学校）、関わりの密度

## 3) 学校の環境条件や学校風土

- 学校規模/先生と生徒の関係性/校則の厳しさ